

資料5

東北医科薬科大学薬学部
改訂モデル・コアカリキュラム
実務実習説明会

学生の評価について

日 時： 平成30年11月3日(土)

場 所： 東北医科薬科大学小松島キャンパス
70周年記念講堂

東北医科薬科大学薬学部

臨床薬剤学実習センター長 鈴木 常義

学生の評価について

I. 施設における概略評価

II. 実務実習成果報告会

III. 最終評価について

新しい実務実習の評価

実習生の薬剤師としての実践的な臨床能力を
定期的に「**概略評価**」して実習生の成長度を評価

- 実習で使用する概略評価に至る「大学での学習」の概略評価は大学が実習前に責任をもって行う。
- 概略評価は、実習の指導者が「**責任ある主観**」で評価を行うことで、実習生の成長を評価するものである。
- コアカリのSBOs**は 概略評価を行う際、繰り返し何度もチェックを行う**チェックポイントとして活用**する。

実習施設内で概略評価を適切に実施できるように、**実習に関わる薬剤師間で評価についての共通認識**をしておく必要がある。

I . 概略評価

概略評価表(例示)						
	観点	アウトカム	第 4 段階	第 3 段階	第 2 段階	第 1 段階
日薬手引きを参照した薬局実務実習評価例示	患者・来局者 応対、情報提供、教育 C		個々の患者の病状経過を踏まえた薬物療法を分かり易く説明する。 治療上の問題点を抽出・解析し、対応策を患者に提案する。	患者の問題点に対する解決策に基づき、患者が理解できるように指導する。 病態の変化に応じた処方薬変更の説明と継続的な指導を実践する。	収集した患者や医薬品に関する情報に基づいて、資料を用いて説明し、服薬指導を行う。 代表的な疾患に関する治療薬の効果および副作用・特に注意すべき事項等について指導を実践する。	コミュニケーションの基本的に基づいた患者応対を行う。 服薬指導を行うために必要な患者情報を収集する。
日病薬評価基準を参照した病院実務実習評価例示	患者・来局者 応対、情報提供・教育	患者からの情報収集、患者への情報提供及び教育を実践する。	患者の問題点を見出し、解決するための服薬指導や教育を行う。	患者の理解度や状態を含めた情報を収集・評価し、適切な服薬指導を行う。 指導記録を作成する。	患者から薬物治療に係る基本的な情報(症状、既往歴、アレルギー歴、薬歴、副作用歴、生活状況等)を正確に収集し、記録する。 処方された医薬品について用法用量、薬効、副作用、使用上の注意事項などの基本的な情報を提供し、記録する。	患者から薬物治療に係る基本的な情報(症状、既往歴、アレルギー歴、薬歴、副作用歴、生活状況等)を収集する。 処方された医薬品について用法用量、薬効、副作用、使用上の注意事項などの基本的な情報を提供する。

4

4



概略評価のフルバージョンは下記サイトからダウンロードしてください。

<http://www.tohoku-mpu.ac.jp/wp/data/jisshu/manual.html>

(2) 処方せんに基づく調剤

GIO 処方せんに基づいた調剤業務を安全で適正に遂行するために、医薬品の供給と管理を含む基本的調剤業務を取得する。

【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】

SBOs 951	8	前) 代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。(技能)
SBOs 952	9 ✓	患者・来局者に合わせて適切な対応ができる。(態度)
SBOs 953	10 ✓	患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)
SBOs 954	11 ✓	医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。(知識・態度)
SBOs 955	12 ✓	患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。(知識・態度)
SBOs 956	13 ✓	妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な対応ができる。(知識・態度)
SBOs 957	14 ✓	お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。(態度)
SBOs 958	15 ✓	収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。(知識・技能)

前): 大学で行う

業務中にやっていたかを
SBOでチェックする

実習施設で行う

薬学実務実習の概略評価の例示について(補足)

薬学実務実習に関する連絡会議

概略評価表(ルーブリック評価表)

どれくらい(質)できるようになったかを評価する

SBOのチェックもしつつ
2～4週間毎に実施

【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】

観 点		概略評価表(例示)					
患者・来局者 対応、情報提 供・教育	患者・来 局者 対応、情 報提供・教 育	観 点	アウトカム	第 4 段階	第 3 段階	第 2 段階	第 1 段階
患者・来局者 対応、情報提 供・教育	患者・来 局者 対応、情 報提供・教 育	患者・来局者 対応、情報提 供・教育	患者からの情 報収集、情報 提供及び患者 教育を実践す る。	個々の患者の身体 状況や生活環境 等、情報収集した 内容を分析し、その 結果から指導に必 要な事項を導き出 し、その患者に最 適な服薬指導をする。	過去の記録、最新 の医薬品情報およ び患者との面談か ら得た情報を基に 指導に必要な項目 を抽出・分析し、服 薬指導時に活用す る。	患者と面談し収集し た情報やさまざまな 情報源から必要な 項目を抽出し、服薬 指導に活用する。 その結果を適切に 記録する。	患者から薬物治療 に係る基本的な情 報を収集し、薬物治 療に係る基本情報 を患者に提供する。
	患者・来局者 対応、情報提 供・教育	患者・来局者 対応、情報提 供・教育	患者・来局者 対応、情報提 供・教育	患者からの情 報収集、情報 提供及び患者 教育を実践す る。	患者の薬物療法の アウトカムを達成 するために必要な情 報を的確に判断し、 患者から情報収集 する。 患者のニーズを的確 に判断し、それを 盛り込んだ情報提 供及び教育を行う。	患者の病態や状 況、高齢者、妊婦・ 授乳婦、小児、障害 者を持った方などに適 切に配慮し、情報を 収集する。 医薬品を安全かつ 有効に使用するた めの情報を種々の ツールを用いて患 者に提供する。指 導、教育内容を適 切に記録する。 患者の理解度を確 認しながら情報提 供を行う。	患者から薬物治療 に係る基本的な情 報(症状、既往歴、 アレルギー歴、薬 歴、副作用歴、生活 状況等)を正確に収 集する。

SDUS
958

6

概略評価表による評価の回数

2～4週間ごとに実施(ガイドライン)



東北地区調整機構に所属する大学

基本は、毎週、概略評価をする。
少なくとも、第4週、第8週、第11週の3回は、概略評価を行う。

概略評価表をこんな感覚で見えては？

第4段階	第3段階	第2段階	第1段階
薬剤師の目指すべき使命を実現できる段階とする。	薬剤師として医療現場で働くことができる基礎を身に付けた段階 実習中に到達すべき基本目標の段階	実習開始から8週間程度かけて到達するライン	大学での学習を確認し、医療現場で指導薬剤師の指導の下、実際に患者に対応ができる段階 実習開始から4週間程度かけて到達するライン

ロールモデルの
レベル

実習終了時の
平均的レベル

二ヶ月目の
平均的レベル

一ヶ月目の
平均的レベル

到達度評価 (H30.1.22時点)

*青字：評価レベルに基づいて評価

黒字：実務実習記録等で確認した日を入力

赤字：日本薬剤師会「薬学生実務実習指導の手引き（案）」の分類番号

(1)薬学臨床の基礎	*臨床の心構え 臨床実習の基礎 →(1),(2),(3)の領域の評価に含まれる
(2)処方せんに基づく調剤 概略評価表を使用	法令・規則等の理解と遵守 ⇒(1),(2),(3)の領域の評価に含まれる * (B) 処方監査と疑義照会 * (A) 処方せんに基づく医薬品の調製 * (C) 患者・来局者応対、情報提供・教育 * (A) 医薬品の供給と管理 *[薬局実習] (B) 安全管理 *[病院実習] 安全管理-医療安全, 安全管理－感染管理
(3)薬物療法の実践	* (C) 患者情報の把握 * (C) (D) 医薬品情報の収集と評価・活用 * (D) 薬物療法の問題点の識別と処方設計及び問題解決 * (D) 有効性モニタリングと副作用モニタリング
(4)チーム医療への参画	医療機関におけるチーム医療 地域におけるチーム医療
実習記録による評価 (5)地域の保健・医療・福祉への参画	在宅(訪問) 医療・介護への参画 地域保健（公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動）への参画 プライマリケア・セルフメディケーションの実践 災害時医療と薬剤師

実務実習記録(日誌・レポート)の内容

- 実習年月日
- 実習場所とスケジュール
- 具体的な実習内容
- 体験した疾患、活動
- 実習で深めることができた能力
- 実習で不足していると感じた能力
- 今後の実習に向けての抱負
- 感想・要望

Ⅱ．実務実習成果報告会 運営案

開催時期: 3回/年 1回 約100名

9月、11月、2月の土曜日を予定

薬局・病院実習終了後(Ⅱ期、Ⅲ期、
Ⅳ期終了後)期終了から概ね1ヶ月内

発表形式: ポスター 薬局・病院で2枚使用

発表内容: 施設紹介のみは認めない

症例報告を含め以下のキーワードを参考に、指導薬剤師と相談してテーマを決める。
実習中の疑問点の調査、解決、提案等も可。

発表内容は予め施設の許可をとること。

参考キーワード

病院: チーム医療、薬剤管理指導、持参薬対応
D I 活動、リスクマネージメント、他部門
・病院内の勉強会、院内患者向けの勉強会、
患者会、プレアボイド、救急医療・ICU・手
術部・放射線部への関与、注射剤配合変化、
副作用報告、TDM、中毒、など

薬局: 在宅、時間外、一般用医薬品(OTC)、薬歴、
かかりつけ薬剤師、リスクマネージメント、
調剤報酬、副作用報告、顧客サービス、疑義
照会、地域連携、地域貢献活動など

実務実習成果報告会概略評価表(案)

実務実習での「成長」について評価する

到達目標	ルーブリック評価			
	S	A	B	C
1. 自ら疑問点等を発見し、自分でテーマを見つけることができる。	自主的に疑問点を見つけ、指導薬剤師にテーマを提案している。	指導薬剤師と相談してテーマを見つけている。	指導薬剤師より、テーマを提案されている。	テーマを選定していない。
2. テーマに関して、自ら適切な調査を行うことができる。	調査した内容を根拠とともに、聴衆が理解できるように示している。	調査した内容について、プロダクトで根拠を含めて示している。	調査した内容について、プロダクトで触れているが根拠は示していない。	テーマに関してまったく調査を行っていない。
3. テーマや結果について適切に考察し、適切に発表に取り入れている。	テーマや結果について適切に考察し、適切にプロダクト及びプレゼンに取り入れている。	プロダクトとプレゼンの両方に考察が概ね含まれている。	プロダクトもしくはプレゼンに考察が含まれている。	プレゼンや質問の回答に、全く考察を含んでいない。
4. テーマについて、聴衆に分かりやすく発表することができる。	発表がスムーズであり、全聴衆に発表内容を理解させることができる。	大部分の聴衆に発表内容を理解させることができる。	大部分の聴衆に発表内容を概ね理解させることができる。	聴衆に発表内容を理解させることができない。
5. 効果的なプレゼンを行い、適切な質疑応答ができる	プレゼン内容を聴衆に理解させることができ、質疑の意図を理解して適切に回答できる	プレゼンで内容を関係者に概ね理解させることができ、質疑の意図を理解して概ね回答している。	プレゼンで内容を徴収に概ね理解させることができるが、質疑の意図から外れた回答しかできない。	プレゼンを一部の聴衆にしか理解させることができず、質疑に答えられない。

配点	2	1.5	1	0.5
----	---	-----	---	-----

Ⅲ. 最終評価について

最終評価は大学で行う

【最終評価の寄与比率】

1. 実習施設の評価	6
2. 実習記録の評価（大学）	3
3. 実務実習成果報告	1
	10

【内訳】

1. 実習施設の評価

- ・10項目の概略評価
- ・態度評価（出席日数・週報コメント）

2. 実習記録の評価（大学）

- ・現在検討中

3. 実務実習成果報告

- ・概略評価表による教員の評価

お知らせとお願い

- 本学を含め東北地区の薬系 6 大学では、今年度より**医薬品卸業者の見学実習を事前学習**の一環として実施しています。

東北医科薬科大学の場合

対 象 : 4年次学生のうち希望者
今年度実績: 123名

- これまで実務実習中に御厚意で卸業者の見学実習を手配して下さっていた施設がいくつかありますが、今後はしていただくかなくても結構ですので、御周知をよろしくお願いいたします。

ご清聴ありがとうございました。